

第1回検討部会における主な意見・提案等

路線・ 旅客数等	<ul style="list-style-type: none"> ・九州他県の空港は、大分空港が200万人達成のころ、300万人以上達成空港がほとんどである。 ・今後の路線ネットワーク展開を考えていく上で、目標となる旅客数を定めるべき。定めなければ抽象的な議論になってしまう。 ・全ての事業者がWIN - WIN になる為には、利用者を増やす必要がある。現在200万人を250万人、できれば300万人を目指したい。 ・大分空港利用者を増やすためには、観光戦略の一層の推進・企業誘致、大分空港の磨き上げが必要。 ・路線ネットワークを増やすためには、単純に大分空港利用者を増やす必要がある。利益が見込めなければ、航空会社もタイアップや増便は行わない。 ・国内線の充実(大分＝名古屋路線の拡充、大分＝那覇路線の新設)現状:(大分発着 27便)(宮崎発着 48便)(熊本発着 29便) ・宇宙港と関連し、種子島等との臨時便の誘致も考えられる。 ・国際線の充実(国際LCCによる路線の再開、東アジア路線の新設)によるインバウンド増加を狙う。 ・国際線については、今後のインバウンド需要や国交等の影響によるリスク等を勘案し、韓国線だけでなく他国・他地域との定期路線就航が必要 ・九州内の回遊性向上のため、他空港(福岡など)に就航している国際線運航会社(グループ・コードシェア含む)に対して、大分空港就航を働きかける。 ・訪日外国人(インバウンド)は、直行便の近隣諸国からだけでなく、羽田・成田経由で欧米豪からの旅客を増やす取組を強化する。 ・日田などの西部地域の県民は福岡空港を利用し、中津エリアの県民は北九州空港を利用している。 ・国内線と国際線の取組に関する比重やインバウンド誘客に向けた空港の位置づけを改めて確認しておくことが重要。 	等
施設 (ターミナル・ 駐車場等)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設面において、高齢化社会を迎える今後、障がい者だけでなく高齢者向けのバリアフリー化も必要。 ・空港前駐車場の空きスペースの見える化が必要。 ・飛行機利用者以外の来港も増加し、特に自家用車利用者が増えると思われる。駐車場の拡張が必要。駐車料金についても検討の余地がある。 ・民間駐車場やレンタカー営業所を周回するシャトルバスを運行で、利便向上と効率化を図ってはどうか。カーボンニュートラルにも繋がる。 ・空港ビル施設前道路の2重レーン構造化が必要ではないか(公共交通機関専用レーンと乗用車レーンの区分け化、レンタカー送迎車専用スペースの確保)。 ・悪天候等でUターンしない安定的な離発着のため、着陸補助設備のグレードアップが必要ではないか。 ・簡易宿泊施設の整備も必要ではないか。 ・ターゲットとする利用者(航空利用者・地域住人・県外観光客など)の範囲によって、目標とする空港施設の内容が変化するため、ターゲットの範囲に関する議論も必要。 	等
二次交通	<ul style="list-style-type: none"> ・大分滞り時間の最大化のため、空港からの移動時間、搭乗手続き、保安検査などの待ち時間がスピーディーに行われるよう二次交通の在り方の模索が必要 ・MaaSの概念は極めて重要。MaaSを充実し航空ネットワークと融合させることが、県の経済と観光の活性化に繋がっていく。 ・ホーバークラフトという選択肢ができる中、利用者が二次交通を選択しやすい、あるいは選択できるシステムの構築が必要ではないか ・ホーバークラフトについては、地場企業と連携し、プロモーションを行い大分県への集客に努める。また、観光要素を持たせることで継続した需要の確保が見込めるのではないか。 ・着地(観光地)での二次交通利便性の向上が必要。 ・陸のアクセスについては、現在路線がない空白地帯も潜在需要があり、新設・変更の余地があるのではないか。 ・霧による高速道路通行止めの解消などの工夫や、一般道でのエアライナー優先走行の検討が必要ではないか。 ・別府駅発のエアライナー路線新設か、エアライナー乗り継ぎ者の別府駅-北浜間バス運賃を無料にするのはどうか ・空港へのアクセスだけでなく、宇宙港の経済効果が周辺地域に波及できるように空港を核とした国東半島観光振興にも繋がるような交通体系の検討も必要ではないか ・レンタカーについては、安全運転支援装備車や環境性能車両の増車を図り対応していく。タクシーについては、UDタクシーの導入をさらに推進し、高齢化社会に対応していく。 	等
宇宙港	<ul style="list-style-type: none"> ・大分空港は、世界で初かつ唯一の陸・海・空・宇宙のすべてを結ぶポイントとなる。「宇宙ビジネスの新たな首都大分」を掲げ、宇宙ビジネスのエコシステムを大分中心に構築したい。 <ol style="list-style-type: none"> ①宇宙ビジネスの新たな首都「大分」(宇宙ビジネスエコシステムの拠点、ロケットや衛星の開発と整備拠点、宇宙旅行ビジネスの創出) ②次世代技術の実証フィールドや新たな取組(完全循環型エネルギーや食産業の創出、観光や国際教育など大分の強みとの連携) ③空港コンセッションとの連携(ホーバークラフト、重要港湾、スペースポートの融合で唯一無二へ) ・早い段階で、宇宙港としてのストーリー性を持つべき。少し尖った戦略が必要。 ・ボーイング747-400自体、国内で飛んでいないので、航空ファンにも注目されることが期待される。旅客機と違い、しばらく駐機するので観光需要も取り込める。 ・ロケットの発射は毎日ではないので、発射がない際に映像や、実物大のロケットを見ることのできる施設が出来れば、常時観光客誘致に繋げられる。また、宇宙港イベントや展示等も必要。 ・ロケットが飛行機から分離・発射される状況がどこかで見物可能か、見物できる場所も検討すべき ・ロケット発射については、通常の航空旅客に支障が出ないように検討することが前提となる。 ・大分空港を宇宙港として発展する場合に宇宙港関連施設(格納庫や整備部品庫等)のスペース確保が必要だが、現状はスペースが見当たらない。 	等
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・航空ファンを惹きつけるエアポートツーリズムなどの視点も必要。 ・季節ごとに目玉になるようなイベントを開催してはどうか ・各地の空港でしか買えないものを大分空港に集めて売る等、県内の人が空港を利用する仕組みも必要。 ・大分県は地熱発電量日本一、再生可能エネルギー自給率も高い。大分空港をカーボンニュートラルモデル空港にできないか。 ・ターミナル施設をゲートウェイとした地域の周遊促進を図られるよう、観光情報等で発信する場の確保が必要。 ・空港が遠いという状況は変わらないので、遠いからどうすべきか、何をすべきか検討する必要がある。 ・コンセッション方式の導入による民間事業者のノウハウを活用した効果的な運用を期待。 	等